

Campus Today



松本歯科大学

発行所 学校法人 松本歯科大学
長野県塩尻市広丘郷原1780
☎ (0263) 52-3100
www.mdu.ac.jp
1部60円

秋晴れの下 スポーツで親睦深める



写真上：白熱したリレー競技、写真下：体育祭の参加者たち（本学写真部撮影）

第32回体育祭―学年を超えて交流

リレー競技の力強い走りに歓声響く

第32回体育祭が10月9日（土）、本学陸上競技場で開催された。新型コロナウイルス感染症の状況によっては開催が危ぶまれたが、学生の強い要望もあって、周到に感染防止対策を施したうえで実現。澄んだ秋空の下、歯学部生、衛生学院生、教員など123人が参加して交流を深め、弾ける笑顔で清々しい汗を流した。

体育祭はスポーツを通して共に汗を流し、一致団結して交流を図ることを目的に、第3学年の伊藤公平実行委員長を中心に1・3学年の学生有志ら約30人が企画・運営にあたった。コロナ禍中での開催のため、朝の受付で抗原検査や体調チェックを行い、待機場所の分散、用具の除菌、競技前

のアルコール消毒、昼食を挟まずに時間を短縮してのプログラムなど、周到な感染防止対策が講じられた。また、主に1年生が学年を超えてより広い範囲で同級生や先輩たちとふれあえるように、ランダムに色別でチームを編成する工夫がなされた。

開会式では、川原一祐学長より「よ

うやく皆さんが顔を合わせられる日が来ます。コロナのため社会生活のスタイルが変わってしまい、交流の機会が制限されてきたことを心痛く思います。今日は皆さんの希望が叶いました。素晴らしい思い出になるような大会にしてください」とエールを送られ、競技に入った。

学生たちは、赤、紫、黄、オレンジに組分けしたチーム戦で、速さ、力、チームワーク等で、戦いを繰り広げた。玉入れやリレー競技ではクラブごとの

チーム対抗戦も行われ、これまで一度も活動ができていない部活の仲間との交流も楽しんだ。プログラム最初の競技は、毎年恒例の玉入れで、色別チーム4組と、クラブチーム10組が赤、白の玉をカゴめがけて投げ入れ、高く澄んだ青空に飛び交った。接戦を演じたのはバスケットとサッカー部。両者とも時間内に持ち玉全てをカゴの中に入れたが、タイム差でサッカー部が勝利を手にした。

クラブ対抗リレーでは、俊足自慢を揃えたサッカー部がスタートから見事な走りを見せ、グランドの周囲には仲間たちが集まり、声援を送った。懸命に走る学生たちに交じって、宇田川信之歯学部部長が日頃の運動不足の体を鞭打ってバトンを繋ぐ姿に、大きな拍手が送られ、盛り上がりを見せた。

○×クイズでは、全員がグランドの中央に集まり、正解を求め指定陣地に移動した。実行副委員長の井口創太君が読み上げる出題は、本学に関する事

職業に対する意識を高め 向上心を忘れずに励む

衛生学院歯科衛生士学科 戴帽式



厳肅な雰囲気での戴帽式

衛生学院歯科衛生士学科第45期生の戴帽式が10月12日（火）、本学7階講堂において挙行され、教員、在校生らが見守るなか、第2学年生32人が歯科衛生士を志す決意を新たにしました。

戴帽式は学生一人ひとりにキヤップを与え、歯科衛生士を目指す者として職業に対する意識を高め、その責任の重さを自覚するための儀式である。

校歌が流れる中、呼名された学生は緊張した面持ちで登壇し、笠原悦男衛生学院長よりキヤップをかぶせてもらい、教員の手でしっかりとピン留めがされた。

笠原学院長は、「皆さんが臨む臨床実習の場は真剣勝負の場です。おおいに緊張してください。緊張しないという仕事はできません。皆さんは好きで歯科衛生士の道を選びました。好きだから頑張れる。頑張れば上手

チーム対抗戦も行われ、これまで一度も活動ができていない部活の仲間との交流も楽しんだ。プログラム最初の競技は、毎年恒例の玉入れで、色別チーム4組と、クラブチーム10組が赤、白の玉をカゴめがけて投げ入れ、高く澄んだ青空に飛び交った。接戦を演じたのはバスケットとサッカー部。両者とも時間内に持ち玉全てをカゴの中に入れたが、タイム差でサッカー部が勝利を手にした。

「ドイツ語で職業の事をベルーフ（Beruf）と言います。神からの召命、あるいは天職という意味です。私たちは自ら職業を選んでいますが、一方では神から託されたもののなのです。皆さんは歯科衛生士というベルーフを選択し、本日ここに第一歩が始まりました。病院は一つの社会です。実習を通して魅力的な社会人予備軍となれることを楽しみにしています」と述べ、今後の活躍に期待された。

2年生を代表して、小林紬さんは、「これから始まる臨床

実習では、周りの方々への感謝の気持ちや忘れる事なく、より多くの知識や技術、患者さんへの思いやりの心を学ぶために向上心をもって臨みたいと思います」と力強く誓った。

最後に第3学年の米原里奈さんより、「学ばせていただけているという謙虚な気持ちを忘れず、皆で助け合いながら積極的に実習に取り組んでください」と激励の言葉が贈られた。

学生たちは、10月25日（月）より来月9月下旬まで臨床実習・臨地実習を行う。

後、県歯科医師会公式チャンネル（https://www.youtube.com/channel/UC14YA-tHXZIFR0rAbpHJ0A）でオンデマンド配信される。

（健診センター 教授 川原一郎）

体育館で蟻ヶ崎高校書道部がパフォーマンス

県歯科医師会の歯科口腔衛生啓発動画を撮影

新型コロナウイルス感染症対策でひっそりしていた体育館に、久しぶりに元気な若い声が響き渡った。10月9日（土）の午後、松本蟻ヶ崎高校書道部の書道パフォーマンスの撮影収録が本学体育館で行われた。同部の本学でのパフォーマンスは2年前の松濤祭に続いて2回目である。今回は、7月に行われた書道パフォーマンス甲子園という書道の全国大会で、同部が2連覇を飾ったことから、長野県歯科医師会が同会のキャッチコピーを題材にしたパフォーマンスを依頼

新型コロナ感染症対策でひっそりしていた体育館に、久しぶりに元気な若い声が響き渡った。10月9日（土）の午後、松本蟻ヶ崎高校書道部の書道パフォーマンスの撮影収録が本学体育館で行われた。同部の本学でのパフォーマンスは2年前の松濤祭に続いて2回目である。今回は、7月に行われた書道パフォーマンス甲子園という書道の全国大会で、同部が2連覇を飾ったことから、長野県歯科医師会が同会のキャッチコピーを題材にしたパフォーマンスを依頼



書道パフォーマンスを披露する蟻ヶ崎高校書道部

飯島勲、官邸に帰還。電撃再任の舞台裏

内閣官房参与
松本歯科大学常務理事
特命教授 飯島 勲

岸田政権下での内閣官房参与再任が決まった飯島先生。『プレジデント』11月12日号「リーダーの掟 飯島勲」より、その胸の内を綴った記事を要約して紹介します。

まさに、青天の霹靂である。岸田内閣でも内閣官房参与に再任されてしまった。周囲からは「岸田文雄新首相の人事で最大のサプライズ」と冷やかされているが、一番驚いているのは私自身だ。「さらば官邸」と公言し、永田町を離れて一人の「政治好き」として自由な言論活動を楽しもうと考えていた矢先のことだったので、本当に驚いた。

自民党総裁選の期間中、そんな話は気配すらなかった。私は今回の総裁選でどの陣営にも関与していなかったが、参与として仕えていた菅前首相や、小泉進次郎前環境大臣が河野太郎氏を支援していたこともあり、何

うつもりで、三たび参与として官邸に戻ることを決意した。思えば、第2次安倍内閣で特命の内閣参与に任命されたのも突然だった。小泉内閣で首席秘書官を務めたあと、福田内閣発足前に秘書を辞めていた私に、安倍元首相から突然電話がかかってきた。あのときも「なぜ、私が」と思ったのだが、私にできることがあるなら、とお引き受けた。安倍元首相の海外訪問に同行したり、北朝鮮関係の調整を担当したりと充実した日々を送った。こうした長年の勤務が評価されたのか、旭日重光章をいただくという栄誉にも与かった。



飯島先生は岸田内閣でも参与に再任された

「参与をもう一度引き受けてほしい」正直に言えば、決断するまでかなり悩んだ。なぜ、私なのか。大々的に引退を宣言していたのだが、菅前首相から「残ってほしい」といわれて驚いた。それでも、私は菅前首相の政策遂行能力に心酔していたので、その下で働けるならと思い引き受けたことを思い出す。

菅内閣の不支持理由では「コロナ対策の遅れ」が目立っていたが、退陣表明後に、遅れていたどころか、世界でも最も効果的な対策がなされていたことがよくよく知られるようになった。10月に入り、東京の新規陽性者数は2ケタにまで減

少。あと1週間早かったらと残念に思う。私が菅前首相の仕事ぶりにより感動したのは外交面である。わずか1年間で米国のバイデン大統領との信頼関係を見事に築き上げた。すでに退陣が決まっていた菅前首相が、対面では初めての日米豪印(クアッド)首脳会合に出席するために訪米したが、これはバイデン大統領の強い意向が働いていたという。最後に行われた日米首脳による懇談では大統領から「菅総理は非常に大きな存在であり、寂しくなる」との発言もあった。ジル夫人も公務先のデトロイトから駆け付け、オリンピック開会式で来日した際の菅総理夫妻のおもてなしに感謝を伝える一幕もあった。辞めるとわかって

いる首相に対して、大統領夫妻がここまで親密さを示すというのは異例のことであり、「もう少し、菅外交を見てみたかった」という気持ちもあるのが正直なところだ。そして今、私は内閣官房参与として岸田新首相を支える立場にある。3人の首相の参与になるといえるのは、内閣史上、非常に珍しいそう。参与になったからいうわけではないが、岸田首相は総裁選への立候補を表明したところから、リーダーらしい風格が身についてきたように思う。以前はどちらかというと優柔不断な印象が強く、前回の総裁選では私は菅前首相を推したのだが、今の岸田首相は人が変わったように、日本国のリーダーとしての自覚がみなぎっている。立場が人を育てるとは、まさにこのことだろう。

新内閣発足直後の支持率は一部会社の調査で50%を割り込むなど良い結果とはいかなかったが、心配することはない。臨時国会会期末での解散を断るとは誰も予想していなかった。私の手元にある選挙分析では激戦区はかなりの多いが、自公連立政権の過半数確保は問題ないだろう。

ひとつにしても、無痛化するための注射が「痛い」と恐れられるようではナンセンスなのだ。不安や恐怖感の軽減にも力を注いだ。新しい行動科学の導入は大いに役立った。それまでの小児歯科では母子分離が原則とされ、アメリカの歯科医師会では「母親は診療室には入れません」というポリシーを配布していたほどだったが、本学病院ではチェアサイドに同席してもらうことにした。ストレスフルな環境での母親の存在は、子どもの身になって考えれば、とても大切なことだからだ。「泣き声の聞こえない小児歯科診療室」は、「笑い声が聞こえない落語寄席」と同様に想像し難いものとされた時代だったが、こうした取り組みは次第に効果を示していった。

第4学年生に向けて 先輩たちが体験談を語り 勉強法をアドバイス

第4学年は、年度末に共用試験歯学系CBT (Computer Based Testing) と O S C E (Objective Structured Clinical Examination) を受験し、両者ともに合格することで進級となります。合格点は大学ごとに異なりますが、本学は後に控える国家試験を見据えて、CBTの合格点が75点に設定されており、臨床実習に挑む前の

大きな関門となっています。私たち(現在の第6学年)が2年前にCBTに挑むときに、合格点が75点に引き上げられました。当時、「なぜ今年から2点も引き上げるのか」という不満の声が学生の間にありました。しかし、CBTを乗り越え、第6学年になった今、75点という点数は決して高いものではないと断言できます。CBTに合格しても、国家試験に合格しなければ何の意味もありません。より高みを目指さなければ国家試験合格は危ういのです。

例年、第4学年の学生を対象に、学習の集いが開かれ、先輩たちが自分の勉強法やステップアップのための経験談などを紹介し後輩を激励していますが、本年も8月24日(火)に、第5学年の学年委員長・長尾将平君の呼びかけで開催されました。



新木君のアドバイスを聞く第4学年

「こどもの健康週間」初日の10月7日(木)に、長野県小児保健協会、日本小児科学会長野地方会、長野県小児科医会の主催および松本歯科大学小児歯科学講座の共催により、塩尻市の吉田児童館で講演会(歯のおはなし)と歯科衛生士による歯磨き指導が上映された。

講演映像では小児歯科学講座の映像では、小児歯科の加藤那奈歯科衛生士と宮尾琴音歯科衛生士が、大きな口の模型を使って歯磨きの指導や磨き方のコツ、歯ブラシの種類について説明した。これまでは会場に向いの講演と指導であったが、コロナ禍の状況に鑑み今回は本学中央スタジオの協力を得て事前に撮影した映像を視聴する形式で実施した。児童や児童館の教員からは何度も見直すことができる映像は好評であった。



歯科衛生士による歯磨き指導の映像

「患者に恐れられる歯医者にはなりたくない」。これが筆者の小児歯科や障がい者歯科の開拓への情熱の原点となった。本学に着任してからも、必要な場合には笑気ガスや全身麻酔を応用することとして、「強制治療」は原則として全廃した。歯科医療が嫌われるのは「痛い」からだろうと考えて、「痛くない歯科治療」の研究開発に精力的に取り組んだ。局所麻酔

筆者自身の小児歯科への取り組みを例として、HEARTの重要性を強調させてもらった。ところで、さらにもうひとつのHとしてHUMANITY(人間性)を挙げておきたい。すでに何度も繰り返して話したように、歯科医師の対象は歯や歯肉といった人体の部品ではなく、知・情・意を備えた人間である。医者⇨患者相互の人間関係の確立(愛)なしには、まっとうな医療は成立しない。本学の学訓「歯科医師である前に人間たれ」を、もう一度噛み締めるべきである。(つづく)

こどもの健康週間 オリジナル映像で講演と歯磨き指導 児童館のこどもたちに分かりやすく説明

指導者にとってCBTは避けて通れず、受かるべきものです。まずはCBTをクリアし、臨床実習を経て卒業・歯科医師国家試験合格までの過程では、学生同士の協力がなくては乗り越えられるものではありません」と

後輩たちに語りました。第4学年は学年委員長の松浦宏季君を中心に、学生同士が協力し合って優秀な成績を収め、全員が進級してくれることを期待しています。

生士が、大きな口の模型を使って歯磨きの指導や磨き方のコツ、歯ブラシの種類について説明した。これまでは会場に向いの講演と指導であったが、コロナ禍の状況に鑑み今回は本学中央スタジオの協力を得て事前に撮影した映像を視聴する形式で実施した。児童や児童館の教員からは何度も見直すことができる映像は好評であった。

「患者に恐れられる歯医者にはなりたくない」。これが筆者の小児歯科や障がい者歯科の開拓への情熱の原点となった。本学に着任してからも、必要な場合には笑気ガスや全身麻酔を応用することとして、「強制治療」は原則として全廃した。歯科医療が嫌われるのは「痛い」からだろうと考えて、「痛くない歯科治療」の研究開発に精力的に取り組んだ。局所麻酔

筆者は教室員には、「どんなに見事な修復治療が出来たとしても、子どもが泣きながら帰っていくようでは失敗だと思え」と教育していた。全国各地で開業したOBの先生方が、ご盛業の理由のひとつに、そうした経験を挙げてくださっている。

歯科医療は変わった！ (その5)

創立者の「視点」



大学誌編集主幹
特任教授 笠原 浩

HEAD(頭脳⇨知的能力)とHAND(腕⇨技能)に

続く第3のHはHEARTである。どれほど知能が高く、すぐれた技術を身に付けていたとしても、患者さんの身になって考える思いやりの心が備わっていないければ、良い医療者ではない。昔の医者は怖い存在だった。とりわけ歯医者は恐ろしいものとされていて、いたずら

分母が原則とされ、アメリカの歯科医師会では「母親は診療室には入れません」というポリシーを配布していたほどだったが、本学病院ではチェアサイドに同席してもらうことにした。ストレスフルな環境での母親の存在は、子どもの身になって考えれば、とても大切なことだからだ。「泣き声の聞こえない小児歯科診療室」は、「笑い声が聞こえない落語寄席」と同様に想像し難いものとされた時代だったが、こうした取り組みは次第に効果を

病院だより vol.36

シリーズ 専門性 ⑳

滅菌サプライセンター

滅菌サプライセンターは、病院からの業務委託により、エア・ウォーター東日本株式会社から従業員8人が院内で作業しています。院内で使用した全ての医療器材を回収、洗浄、滅菌、納品までを行う部署で、使命として「患者に安全な滅菌医療器材・器具・材料を提供すること」を掲げ日々業務に従事しています。回収業務については、病棟・外来の各部署まで伺って回収を



器材の組み立てを行うスタッフ

また、弊社には松本市梓川に滅菌センターがあり、EOG（エチレンオキシド）滅菌も行っております。EOG滅菌では院内の滅菌器では処理できない複雑な構造の光学器材やプラスチック製品を週2回、納品と回収を行っております。また、内視鏡室の支援業務も業務委託し、滅菌サプライセンターのスタッフ1人が常駐して看護師が患者の

行い、院内の移動時も安全な密閉容器に器材を入れ、運搬を行っております。洗浄業務では、各部署から回収した様々な器材を洗浄機（ウォッシャー・デイスインフエクター）で、筒状になっている器材は超音波洗浄機で各器具別に確実に洗浄が行えるように細分化しています。また、洗浄業務時にはCDC（アメリカ疾病予防センター）より提唱された標準予防策を実施し、感染症診断で選別する対策ではなく、全ての患者に使用した医療器具は感染の危険性があると認識し、ギャップ、マスク、エプロン、ゴーグル、手袋などの防護具を確実に身に

つ目は「化学的判定」。滅菌物単体が滅菌工程を通過したかどうかの確認を行います。滅菌時のみ反応する化学物質が印刷された特殊なカードやテープを使用し、変色を確認しています。3つ目は「生物学的判定」。滅菌時、人体に無害な生きた微生物と一緒に滅菌し、終了後に培養して菌の死滅を確認する事で、無菌性の保証となります。3つの判定により滅菌保証を行い、各部署へ器材を仕分け、納品を行っております。

医療に専念できるよう、内視鏡検査に使用したスコープの受け取りや洗浄機への準備および洗浄業務も行っております。昨今の新型コロナウイルスの蔓延に伴い、病院職員の皆様と相談し可能な限りの対策を行って、患者や職員の安全を図り常に院内感染防止に注力しております。今後も安心・安全な医療器材の提供と合わせ、医療に携わる全ての方の安全を保てるよう尽力してまいります。



内視鏡スコープの洗浄作業

顎顔面口腔外科医・岩田雅裕先生
世界各地での医療援助活動を語る



講義終了後に岩田雅裕・宏美先生を囲んで記念撮影をする第1学年

8月3日（火）、第1学年「生命科学入門Ⅱ」の授業で、世界各地での医療ボランティア活動を行うフリースタイルの顎顔面口腔外科医・岩田雅裕先生とそのサポートを行う岩田宏美先生が「これから医療者をめざす皆さんへ医療支援奮闘記」メスは国境を超える」と題して講義を行った。

岩田先生は約20年間にわたり、カンボジアを中心にアジア各国で口唇口蓋裂や口腔腫瘍など3000件以上の手術を無償で続け、現地医療では治療が困難な多くの患者を救ってきた。発展途上で医療に貢献した人を称える「大山激励賞」や公益財団法人社会貢献支援者表彰などを受賞している。ご夫妻のその活動は「情熱大陸」などテレビ・マスコミにも取り上げられ2019年からは本学非常勤講師として毎年、その志や活動内容、開発途上の医療の現実などを伝えている。

岩田先生はこれまでの活動を振り返り、「嬉しかったこと2割、苦しかったこと8割」と語った。深夜便でカンボジアへ入り、カンボジアを中心にアジア各国で口唇口蓋裂や口腔腫瘍など3000件以上の手術を無償で続け、現地医療では治療が困難な多くの患者を救ってきた。発展途上で医療に貢献した人を称える「大山激励賞」や公益財団法人社会貢献支援者表彰などを受賞している。ご夫妻のその活動は「情熱大陸」などテレビ・マスコミにも取り上げられ2019年からは本学非常勤講師として毎年、その志や活動内容、開発途上の医療の現実などを伝えている。

超高齢社会では、加齢に伴い虚弱状態（フレイル）が進み、日常生活に支障をきたす要介護高齢者が増加する。フレイル予防のためには、口腔機能の低下や食事摂取量の低下を防ぐことが重要で、噛む力を鍛え、栄養をしっかりと摂ることで健康長寿の実現が期待されている。本学ならびに東京医科歯科大学、東京大学などが参画する国際科学技術共同研究推進事業で

国した早朝から現地の病院に赴き、診察・診断、手術が目白押しで、旅費も滞在費もすべて自費、手術も無償。満足な医療機器もなく、衛生環境も劣悪、それでも医療支援を続けているのは「困っている人を目の前にして放っておけない」との想いからであり、患者の笑顔、感謝の気持ち活動の原点にある。また「現地に後継者を育て、カンボジアの医療をカンボジア人の手で完結できるようにしたい」との目標を掲げ、カンボジアの大学でも講義を行い、後進の育成にも努めている。

ボーダー」を設立した。医療水準が低く医療困窮者が多い国で、日本の医療で培われた高い技術を組織として無償で提供し、さらに医療人をはぐくむ教育や疾病予防の啓蒙をし、よりたくさんの人を救う活動を推進している。

カムカム健康プログラムの実証研究として
県内のシニア大学に「カムカム弁当」を提供

は、よく噛んで食べ、しっかりと噛める口の健康を保つことを中心に、運動や社会参加を含めたフレイル予防のための複合プログラム「カムカム健康プログラム」の普及・推進に努めている。本学総合歯科医学研究所の増田裕次教授と東京医科歯科大学大学院・松尾浩一郎教授（元・本学障がい者歯科学講座准教授）らは、カムカム健康プログラムの社会に広めるための実証研究として、長野県シニア大学松本学部および大北学部に参加する高齢者約120人に協力してもらい、噛み応えや栄養に配慮した「カムカム弁当」を提供して口腔機能の向上に関する指導を実施した。



カムカム弁当を試食するシニア大学生

カムカム弁当は、松本学部は王滝グループ（飲食・ケータリング業者）が、大北学部は健康栄養食Zen（レストラン）がメニューを考案・製造した特注弁当。噛み応えのある食材が用いられ、食材を大きめに切ったり、水分を少なくするなど調理法も工夫され、噛む力を自然に強化できるラインナップを展開した。大北学部で7月に供されたカムカム弁当は、鶏むね肉を湯が

緒に考える取り組みも行っている。学生たちは、困っている人たちのために医療人としてボランティア活動に取り組むお二人の話に聞き入り、感銘を受けていた。

（生命科学入門Ⅱ担当 教授 岡藤範正）



大北学部で供されたカムカム弁当

阿智高校の生徒が本学見学
リアルな「大学」を実感！

長野県阿智高等学校で大学進学を希望する2年生の生徒36人が10月5日（火）、授業「総合的な探究の時間」における将来に向けたキャリア教育の一環として、本学を見学に訪れた。

大型バスで午前9時に本学に到着した一行は、図書館学生ホールで宇田川信之歯学部長による「多様化する歯科医療の役割」についての模擬講義を聴講した。宇田川歯学部長は、齲蝕（むし歯）の原因と進行の過程、歯周病と生活習慣病の関係、摂食嚥下やスポーツ歯科の内容などを説明し、社会に貢献する歯科医師の使命を伝えた。



図書館司書の説明を聞く生徒たち

その後、図書館、学生ラウンジ、学生食堂、中庭、実習館101実習室などを見学した。ほとんどの生徒は大学に足を踏み入れるのは初めての経験で、図書館では書架に収められた歯科医療関係の膨大な蔵書量に感心

し、充実した本学の学習施設や自然豊かなキャンパスの風景に触れて目を輝かせていた。生徒たちは「実際の大学を見て、話を聞いて、雰囲気を感じることができ、進学の参考になった」と話していた。

石川絃一特任教授が撮影 白米千枚田（石川県輪島市） 「日本農業の聖地」がここにある

本学のコロナワクチン職域接種責任者の石川絃一医師（特任教授）から、千枚田の写真と文が投稿されましたので、紹介いたします。

棚田といえば、長野県千曲市の「壊捨の棚田」が有名です。田植え前の時期、水を張った田んぼに満月が映り込む様子は、戦国時代から「田毎の月」として

愛されていたそうです。

一方、白米千枚田（しろよねせんまいだ）は、石川県輪島市白米町にある1007枚の田圃で構成された「まさに千枚田」です。日本海に面して、小さな田が重なり海岸まで続く絶景は、日本の棚田百選、国指定文化財名勝に指定され、奥能登を代表する観光スポットとして親しまれています。

この棚田は、国際連合食糧農業機関（FAO）が認定した「世界農業遺産」の一つ（日本には他に10カ所があり、平成23年に我が国初の認定）です。

白米千枚田では毎年4月末頃から棚田に水が引かれはじめ、5月のはじめに田植えが始まります。棚田の水面に映る空は鏡のように輝きます。夏には稲の瑞々しい緑と日本海の青のコントラストや、夕日に染まる棚田も絶景です。秋の収穫期には春先の田んぼの様子から打って変



夕日に輝く海と千枚田の水面

わり、黄金色の稲穂が棚田を彩ります。たわわに実った稲穂が風に揺れる様子は「日本の原風景」といえるでしょう。このような美しい棚田の景観をみんなで守ろうという趣旨で、私は6年前から「オーナー会員」として田起こし、あぜ塗り、田植え、草刈り（コロナの状況で中止）、稲刈りを行ってきました。



全国からオーナー会員が稲刈りを体験

午後の部は、衛生学院1年生の避難誘導訓練で、糸魚川―静岡構造線断層を震源に震度6弱の地震が発生したという想定のもと、教室での身の安全を確保するシエイクアウト訓練と学生を敏速かつ安全に避難誘導させる訓練が行われた。

また、病院防火・防災訓練では、入院患者および外来患者の避難誘導訓練が実施された。

10月6日（水）は、歯学部第1学年生の避難誘導訓練において、キャンパスイン101教室で授業中に地震が発生したという状況下、学生たちはただちに

机の下にもぐり、シエイクアウト姿勢をとった。学生たちは5分以上の間、しっかりと机の下で体を守る態勢をとり続けた。その後、担当職員と地区隊避難誘導班が協力して、教室前方より避難誘導が開始された。

衛生学院の避難訓練終了後は、笠原悦男衛生学院院长から「教室から避難する際に小走りになる学生が見られたが、転倒などで二次災害もあり得るため落ち着いた行動をとるように」との訓示があった。また歯学部の訓練後は、安藤宏学学主任から「普段から避難経路や避難方法を考えておいてください」と講評があった。

衛生学院の避難訓練終了後は、笠原悦男衛生学院院长から「教室から避難する際に小走りになる学生が見られたが、転倒などで二次災害もあり得るため落ち着いた行動をとるように」との訓示があった。また歯学部の訓練後は、安藤宏学学主任から「普段から避難経路や避難方法を考えておいてください」と講評があった。

医薬品の安全と信頼について理解する

矢ヶ崎怜央講師による講義

6月21日（月）と28日（月）の2回にわたり、第1学年「環境学・国際文化学」のカリキュラムとして、矢ヶ崎怜央講師による英国における教育制度および医薬品についての講義が行われた。



講義する矢ヶ崎先生

講義の最初に、矢ヶ崎講師が3歳から20歳代まで英国で教育を受けてきたこと、その結果「化学」に興味を持ち、現在携わっている「医薬品」関係の職業に就いた経緯について説明された。

講義の中ではまず、「ヒポクラテスの誓い」が朗読された。紀元前4世紀「医学の父」ヒポクラテスによる誓書は、医師の倫理・任務について記載されていて、現代社会における医師・

様々な投与方法があり、それぞれの疾患に対する適切な薬剤の選択と投与量が重要であることを示された。さらに、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）を予防するためのワクチンについて言及された。現在流通しているワクチンは6種類（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイ

ド、サブユニット結合型ワクチン、mRNAワクチン、ウイルスペクターワクチン）に分類される。新型コロナウイルスワクチンとして、ファイザー社とモデルナ社はmRNAワクチン、アストラゼネカ社はウイルスペクターワクチンとして、新規ワクチンを開発した。これらのワクチンの日本における医薬品承認審査は「医薬品医療機器総合機構（PMDA）」によって行われることが説明された。

ワクチンによる副反応も認められるが、医薬品は、リスクとベネフィットのバランスにより、疾病から人間を助けるために使用することが重要であることが強調された。

講義の最後では、医薬品に関する質問のみならず、英国での生活や教育環境についての様々な質問があり、国際文化学として相応しい講義であった。

（歯学部 宇田川信之）

防火防災訓練に学生・職員202人が参加 落ち着いた行動で二次災害を防止へ

防火防災訓練が10月4日（月）と6日（水）に実施され、避難する側、誘導する側それぞれの訓練が行われた。

4日（月）午前部では新入

職員を対象に、消火器による初期消火訓練や消火栓を使用した放水訓練が行われ、本館4階南棟屋上で、斜降式救助袋の取り扱い説明と降下訓練を体験した。



避難訓練後点呼を受ける第1学年生

NEW FACE

本年度に新しく職員
の仲間入りをされた本
学病院で働く歯科衛生
士さんを2回シリーズ
で紹介しします。



阿部 優希乃さん
原村出身

子どもの頃は虫歯が多く、よく歯医者さんに通っていて、歯科を身近に感じたことと、歯科衛生士は求人需要が高い職業であることから、志望しました。

もともと接客が好きなので、患者さんとコミュニケーション

をとるのは楽しいです。口腔クリーニングを行って、患者さんの口の中がきれいになったときは、やりがいを感じます。

歯科衛生士としての責任感を持ち、患者さんの症状や性格をきちんと把握したうえで適切に対応していきたいと思っています。

先輩たちのように患者さんから信頼される歯科衛生士をめざします。

余暇は、実家の犬と遊んだり、映画鑑賞などでリフレッシュしています。

小さい頃、歯科矯正をしていた、その時お世話になった歯科衛生士さんに憧れを抱きました。

私は長野県公衆衛生専門学校出身です。開業歯科医院への



久保田 香澄さん
阿南町出身

Matsumoto Dental University SNS Information



LINE



twitter



Instagram



facebook

人事異動

〔退職〕
9月30日付
太田 浩一（教授（歯学部眼科））
藤井 政樹（講師（歯学部口腔機能学））
加藤 大樹（診療助手（矯正歯科））
〔契約満了〕
9月30日付
小林早智子（事務局長事務員（派遣員））
塩原 智恵（事務局事務員（契約職員））

就職も考えましたが、2年生のときに松本歯科大学病院で臨床実習をさせていただき、歯科衛生士の方々の働きぶりに触れられたこと、そして各専門分野のスペシャリストの先生方がいらつしゃって多くを学べることから、松本歯科大学病院に入職させていただきます。

小さいお子さんへの歯磨き指導では、わかりやすい言葉使いを心がけています。子どもの患者さんが受診に慣れ、理解度を増して成長していく姿を見守るのも楽しみです。

衛生学院の避難訓練終了後は、笠原悦男衛生学院院长から「教室から避難する際に小走りになる学生が見られたが、転倒などで二次災害もあり得るため落ち着いた行動をとるように」との訓示があった。また歯学部の訓練後は、安藤宏学学主任から「普段から避難経路や避難方法を考えておいてください」と講評があった。

衛生学院の避難訓練終了後は、笠原悦男衛生学院院长から「教室から避難する際に小走りになる学生が見られたが、転倒などで二次災害もあり得るため落ち着いた行動をとるように」との訓示があった。また歯学部の訓練後は、安藤宏学学主任から「普段から避難経路や避難方法を考えておいてください」と講評があった。

11月行事予定

〔採用〕
10月1日付
米倉寿美枝（事務局長事務員（契約職員））
太田 博子（事務局事務員（契約職員））

4日（木）
献血
9日（火）
学校推薦型選抜②
10日（水）
公募制推薦入試①（衛生学院）
学校推薦型選抜②
公募制推薦入試②（衛生学院）
14日（日）
一日体験入学（歯学部）
24日（水）
大学院発表会
27日（土）
学校推薦型選抜（公募制指定校）
校友子女選抜（歯学部）
29日（月）
IV期試験（第6号）

受験生の皆さんへ

学校推薦型選抜（公募制）
学校推薦型選抜（指定校）
校友子女選抜

試験日 11月27日（土）
出願期間 11月8日（月）～11月24日（水）

一日体験入学

11月14日（日）
開催時間 9:40～15:00（受付 9:15～）
●キャンパスツアー ●ランチ体験
●模擬実習 ●入試説明 ●進学相談 など
※参加希望の方は、本学ホームページまたは下記までご連絡ください。

お問い合わせ
HOT LINE 0263-54-3210
松本歯科大学 入試広報室
www.mdu.ac.jp